

キュウリうどんこ病および褐斑病に対する品種別耐病性

和歌山県農業試験場

目的

施設栽培キュウリの重要病害であるうどんこ病および褐斑病は、日高地方での発生が多く、農薬だけの防除が困難な状況にある。両病害に感染しにくい耐病性品種が導入されつつあるが、その耐病性程度は知られていない。そこで、本県で栽培歴のある品種を含めた10品種を用いて、両病害に対する耐病性程度を検証した。

試験方法

うどんこ病

定植 2020年6月1日

調査 7月9日
※自然発病したものを調査

褐斑病

定植 2020年6月1日

接種 7月7日に 1.0×10^4 個/mlに調整した孢子懸濁液を50ml/株になるように背負式電動噴霧機を用いて噴霧接種
調査 7月21日

試験結果

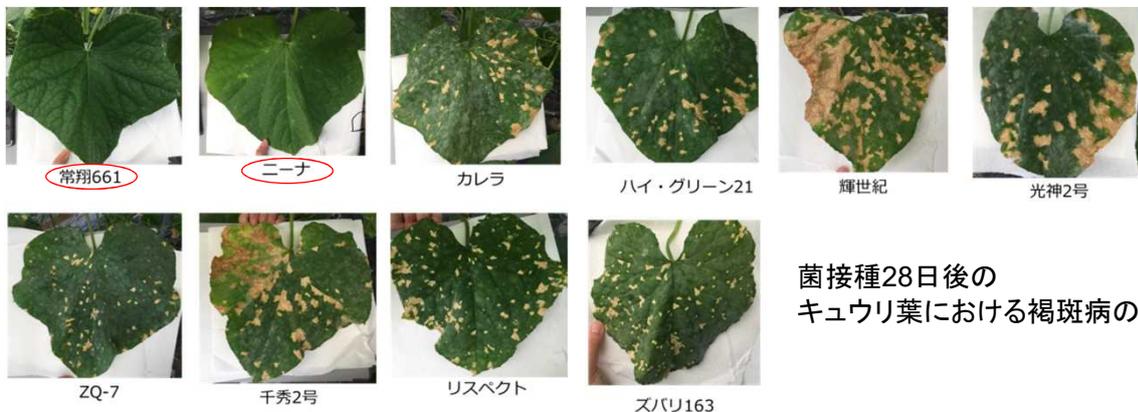
表1 うどんこ病の品種別発病葉率と発病度

供試品種	耐病性の有無	程度別発病葉数					発病率	
		0	1	2	3	4	(%)	発病度
リスベクト	有	55	40	4	1	0	45.0	12.8
ニーナ	有	33	49	17	1	0	67.0	21.5
千秀2号	有	19	29	35	16	1	81.0	37.8
輝世紀	無	31	27	34	8	0	69.0	29.8
光神2号	無	17	42	38	3	0	83.0	31.8
ZQ-7	無	16	41	37	1	5	84.0	34.5
カレラ	無	24	28	28	5	15	76.0	39.8
常翔661	無	7	7	48	26	12	93.0	57.3
ハイ・グリーン21	無	13	15	14	31	27	87.0	61.0
ズバリ163	無	8	15	27	20	30	92.0	62.3

表2 褐斑病の品種別発病葉率と発病度

供試品種	耐病性の有無	程度別発病葉数					発病率	
		0	1	2	3	4	(%)	発病度
常翔661	有	97	3	0	0	0	3.0	0.8
ニーナ	有	97	3	0	0	0	3.0	0.8
カレラ	有	26	51	21	0	1	74.0	24.3
ZQ-7	有	21	41	38	0	0	79.0	29.3
千秀2号	有	21	33	38	9	0	79.0	34.0
リスベクト	有	12	51	28	9	0	88.0	33.5
ハイ・グリーン21	無	12	42	39	5	2	88.0	35.8
輝世紀	無	19	36	29	11	5	81.0	36.8
光神2号	無	7	31	50	12	0	93.0	41.8
ズバリ163	無	5	27	42	16	10	95.0	49.8

程度別指数 0:発病を認めない。 1:病斑面積が葉面積の5%未満を占める。 2:病斑面積が葉面積の5-25%未満を占める。
3:病斑面積が葉面積の25-50%未満を占める。 4:病斑面積が葉面積の50%以上を占める。 ※耐病性の有無は、メーカーの発表による。



菌接種28日後の
キュウリ葉における褐斑病の病斑

うどんこ病では、'リスベクト' および 'ニーナ' で、褐斑病では、'常翔661' および 'ニーナ' で、発生が少なく、耐病性が高いことが分かった。
これらの品種を導入することにより、農薬散布回数の削減が期待できる。